

平成 24 年度第 1 回常務理事会議事録

日 時：平成 24 年 5 月 18 日（金）15：00～17：40

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

常務理事：岩下 光利、嘉村 敏治、吉川 史隆、上妻 志郎、峯岸 敬、八重樫 伸生、
吉川 裕之

監 事：岡村 州博、武谷 雄二、和氣 徳夫

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、平松 祐司、水沼 英樹、水上 尚典、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、
佐藤 豊実、下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、
阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち 10 名（木村正常務理事は欠席）が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。冒頭に平松祐司先生が第 64 回学術集会についての謝辞を述べられた。

I. 平成 23 年度第 8 回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ①山本皓一功労会員（東京）が 3 月 18 日にご逝去された。（東京学会より 5 月 1 日報告受領）
- ②長野寿久功労会員（静岡）が 4 月 3 日にご逝去された。（静岡学会より 4 月 10 日報告受領）
- ③飯島宏功労会員（大阪）が 4 月 19 日にご逝去された。（大阪学会より 5 月 1 日報告受領）
- ④佐藤友義功労会員（岩手）が 5 月 11 日にご逝去された。（岩手学会より 5 月 16 日報告受領）

(2) 平成 24 年度定時総会次第(案) 及びビジネスミーティング日程について[資料：総務 1]
本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) 第 68 回学術集会長候補者の公募及び選定委員会委員について [資料：総務 2]

- ①第 68 回学術集会長候補者の公募について、
「会員へのお知らせ」をホームページ及び機関誌 6 月号に掲載したい。

②選定委員会委員について [資料：総務 2-1]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(4) 本会の登録データの使用について [資料：総務 3、3-1]

水沼英樹委員長「過去に集めたデータを別の目的で使用する場合のルール、また本会に帰属するデータを使用した発表方法のルールの検討が必要ではないかと考える。」

吉川裕之理事「厳密に言えば目的外使用は認められないが、過去データについて学会が責任をもって発表することはありえる。しかし今後は各施設の IRB を通ったデータのみを使って解析することになる。少なくとも学会が主体でないデータの使用はありえない。」

落合和徳副理事長「集められた生データを加工して解析する場合はその通りだと思う。これからのデータ登録は、将来の研究に学会が用いる目的に限定し、予めそれを伝えたいうえで収集する必要がある。」

岡井崇副理事長「周産期領域では古くからデータ登録を行ってきた。数年前からそのデータを周産期委員長の承認を受けて学術研究に使っている。今回学会として基準を決めてもらえるとうえに良いと思う。」

吉村泰典委員長「500 を超える数の施設の IRB を通さなければいけないというのには無理がある。許可を得たら使って良いというようにはできないのか。」

吉川裕之理事「各施設から包括の同意を取っていれば可能である。」

水沼英樹委員長「臨床研究審査委員会として判断するにあたり、データの目的外使用とならないためには、各委員会の規約で『集めたデータは将来の臨床研究に用いる』という文言が入っている必要がある。現在規約に書かれている目的は漠然とし過ぎている。」

吉川裕之理事「今後は施設の IRB を通し、施設でのデータ収集とそれに関する研究をホームページに載せて患者さんが見られるようにする『観察研究のルール』に従って行うべきである。また過去のデータ使用については、学会内部の共同研究者として学会を代表して発表してもらうように求めるのはどうか。」

佐川典正議長「対象となる登録データを研究目的で使用する旨をホームページなどに掲載したうえで使用するようにすべきではないか。」

岩下光利理事「各委員会で対応が違うわけには行かないので、専門委員会内規に盛り込む形で整理することにしたい。」

水上尚典委員長「データ登録の目的について、『産婦人科医療の向上に資する研究のために使用する』ことを各委員会の規約等に早急に入れてはどうか。また提案だが、過去のデータについて利用を許されたものは各委員会とし、オーサーシップは本会と各施設を入れて論文を執筆し、本会ホームページに〇〇～〇〇年の間に〇〇施設で〇〇の治療を受けた方が含まれている、と掲載すると問題はクリアされるのではないか。」

上妻志郎理事「学位審査の際に、保健学科の大学院生が本会の周産期登録データを用いて学位論文を提出したケースがあった。本会のデータ使用ルールを決めておく必要があると思う。」

小西郁生理事長「今回の件は生殖・内分泌委員会で検討して、学会できちんと責任を取れる形で解析を進めるための提案をお願いしたい。また今後の一般ルールについては臨床研究審査委員会で枠組みを作っていただくことでどうか。」

小西郁生理事長の示した対応につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(5) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

5月9日現在、入金済5,615冊、校費支払のため後払希望 3冊。

②札幌厚生病院の三國雅人会員より、尿由来ゴナドトロピン製剤のプリオン混入についての再質問を受領した。本件については、欧州生殖医学会が「尿中にプリオンが含まれていても、病原性のあるプリオンの存在を意味することにはならず、歴史的に本剤の使用によりに疾病数が増えていないことからなどより、尿由来製剤の使用を支持する」とのコメントを出していることなどから、現実対応として危険はない、という方向で生殖・内分泌委員会で議論の上、次回理事会で承認を得ることとしたい。[資料：総務3-2]

峯岸敬理事「欧州生殖医学会や仏政府の保健製品衛生安全局からも問題は病原性プリオンの有無であること、また疫学的調査のサーベイランスでもCJDが増えていないことから、医療行為の見直しを要することはない、との結論になっている。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

③卵子提供に関する議員立法の動きがあり、本会としても卵子提供に係る医学的なリスクや対応等につき整理しておく必要があるため、生殖・内分泌委員会内に卵子提供検討WGを立ち上げることにしたい。委員は石原理先生、苛原稔先生、落合和徳先生、峯岸敬先生、吉村泰典先生にお願いしたい。

吉村泰典委員長「自民党の有志議員が2～3年前から第三者を介する生殖補助医療について法的整備を検討している。この問題は2004年から動きが止まっている一方、海外では卵子提供が行われている。本会の内部では概ね意見はまとまっている感じはするが、現時点の一応の結論を出しておいた方が良いということである。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①金原出版より「婦人科がん取扱い規約―抜粋―」(第二版)の出版に関する依頼状が届いた。

本件は平成24年度婦人科腫瘍委員会事業計画案件であり、本事業を推進したい。

[資料：総務4]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会 特になし

(ニ) 女性ヘルスケア委員会 特になし

〔II. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①同省保険局保険課から、出産育児一時金等の受取代理制度の届出について通知を受領した。

本会ホームページに掲載して会員への周知を図った。 [資料：総務5]

②同省雇用均等・児童家庭局母子保健課から、不育症の相談対応事業への協力依頼を受領した。

[資料：総務5-1]

〔III. 関連団体〕

(1) 日本医学会

①日本医学会から、日本医学会への加盟申請の公示についての依頼を受領した。本会機関誌及びホームページに掲載して会員への周知を図りたい。[資料：総務6]

(2) 日本外科学会

日本外科学会から同学会と日本解剖学会の共同で作成した「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」制定の通知を受領した。本件については本会からも竹田省先生を通して意見書を提出している。[資料：総務7]

(3) 日本癌治療学会

同学会関連学会連絡委員会委員の推薦依頼を受領したが、本会からは吉川裕之先生が既に委員として就任されていることから、特に推薦を行わないこととした。[資料：総務8]

(4) 日本性感感染症学会

本会を含む6学会連名で厚生労働省宛に「4価HPVワクチンの男子適用に関する要望書」を提出する予定であったが、本件の取りまとめを行っている日本性感感染症学会から、この要望書は男性に対する国内臨床試験の実実施計画が明確になってから提出すべきであるとして、当面提出を延期したいとの中間報告があった。[資料：総務9]

(5) マンモグラフィ検診精度管理中央委員会

同委員会が主催する乳房超音波検査を含んだ精度管理体制の検討委員会が5月19日に開催されることになり、本会からの参加者の推薦を依頼してきた。本会からのマンモグラフィ検診精度管理中央委員会役員である大村峯夫先生にご出席いただくこととした。[資料：総務10]

(6) 黒住医学研究振興財団

同財団から、平成24年度小島三郎記念文化賞の推薦依頼を受領した。[資料：総務11]

[IV. その他]

(1) 株式会社電通から、「女性のための漢方セミナー」(平成24年5月30日：金沢歌劇座、9月6日：中京大学文化市民会館、9月11日：アクロス福岡、10月9日：仙台電力ホール、10月16日：松山ひめぎんホール、11月19日：大阪オリックス劇場、平成25年3月3日：渋谷公会堂)への後援依頼を受領した。経済的な負担はなく、これを応諾した。

(2) 愛媛県西予市から「西予市おイネ賞事業」懸賞作文応募についての周知協力依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知を図りたい。[資料：総務12]

(3) 第17回日本病態プロテアーゼ学会学術集会(平成24年8月10・11日：オークラアクトシティ浜松)の後援依頼を同学会から受領した。経済的な負担はなく、これを応諾したい。

和氣徳夫監事「総会運営委員会委員と決算委員会委員の選出依頼は連合学会会長宛になっているが、地方連絡委員会にこれについての内規がない。また連合学会会長の任期は1年であり、地方連絡委員会委員として選出依頼を行うのであれば内規を作り、任期を変更できるようにしないと整合性がない、との意見が九州連合理事会であった。」

嘉村敏治理事「九州の場合、ブロック長は毎年変わるが地方連絡委員会ブロック代表委員の任期は2年となっており、これを一致させた方が良いとの意見である。」

和氣徳夫監事「ブロック代表者を地方連絡委員とするのなら、それを前提として内規にその役割を盛り込む必要がある。」

岩下光利理事「総務でそれに対応した規約を考えたい。」

2) 会 計 (岡井 崇副理事長)

(1) 決算監査と会計担当理事会の開催

本日5月18日12:30から平成23年度の決算監査を行い、併せて会計担当理事会を開催した。

平成23年度決算については6月23日の定時総会に諮る予定である。 [資料：会計1]

岡井崇副理事長「常務理事会の前に会計理事会を開催して、決算内容の説明、監査法人からの監査報告を受けた。そのうえで会計及び業務が適正に行われているとの監事からの監査報告書を受領した。平成23年度決算は、1,187万円の黒字、正味財産残高は8億2百万円であった。公益目的事業は4事業ともに赤字であり公益法人が遵守すべき収支相償の基準を満たしている。同様に遊休財産額や公益目的事業比率についても基準をクリアしている。」

吉川史隆理事「余剰金があって公益法人としての規則に抵触しないのであれば、国債で運用することも検討してはどうか。」

桜田佳久事務局長「債券には価格変動リスクがあるため、現時点では考えていない。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①学術講演会評価委員会を6月7日に開催する予定である。

②平成24年度第1回学術委員会を6月8日に開催する予定である。

(ロ) 他団体特別賞推薦依頼について

①平成24年度「日本医師会医学賞」「日本医師会医学研究助成費」

各理事、学術委員会委員に推薦を依頼した。 [資料：学術1]

(2) プログラム委員会

①第65回学術集会長からの提案について [資料：学術1-1]

櫻木範明第65回学術集会長「学会の公式言語を英語にすることは難しいにしても、英語による情報交換の機会を増やすため、ポスターの作成やワークショップの口演などで英語使用を進めるなどの企画を進めたい。」

和氣徳夫監事「ポスターを英語にするのであれば抄録を日本語にする必要はないと思う。」

吉川裕之理事「本件は学術委員会で議論したうえで理事会を通したほうが良い。」

岡井崇副理事長「一気に英語とするのは抵抗感もあるだろうから英語セッションを徐々に広げて行くことではどうか。」

平松祐司委員長「方向としては異論はないが、スピード感にはいろいろな意見があると思う。和文に加えて英文の抄録を作っているが、これを一本化することも検討してほしい。」

嘉村敏治理事「以前に一般講演に海外からの演者を混ぜて行ったことがあった。その時の評価はどうだったのか。」

和氣徳夫監事「評価は悪くはなかったが、日本語が良いという方は必ずいて、その方々への配慮があつて続かなかつたかと思う。ただし学会の公用語は英語と日本語である。」

佐川典正議長「ポスターや口演の選択や英語の選択など、どのようなプログラムにして参加者が満

足するものにしていくかは学術集会長の裁量権であると思う。」

小西郁生理事長「ポスターをすべて英語にするかどうかは学術委員会で議論いただくとして、ある程度英語を入れていくことにはコンセンサスがあると思うのでその方向で検討いただきたい。」

(3) 学術委員会内委員会の立ち上げについて

峯岸敬理事「グッドプレゼンテーション賞を受けた演題の共同研究者から内容に疑義があるとの指摘を受けた。演者も問題を認めているので演題の取消し及び演者への注意を検討している。また演者に外国人が入っている場合の対応について筆頭演者の責任で了承を取る旨の内容を募集要項に入れる予定である。もう1件は本会のランチョンセミナーで発表したデータについて引用された先生の了解が得られていないとの指摘で、これもこの委員会で対応していきたい。」

吉川裕之理事「問題が明確な場合、何もしない訳にはいかず、一定の処分は必要だろう。」

峯岸敬理事「学会からというより学術委員会からの処分を検討している。」

岡井崇副理事長「JOGR には規程があるが、学術集会での行為については決まりがあるのか。規程なく処分するのは難しいだろう。」

峯岸敬理事「そのため学術委員会内での対応とした。」

吉村泰典委員長「今後これを論文にする可能性があるとのことであるが。」

峯岸敬理事「アメリカの施設は実験をやり直ししたうえでの申請は可としている。また日本の大学では審査中である。」

小西郁生理事長「本件は学術委員会できちんと対応していただいている。これに加えて、不正な行為があれば処分を受けることがある、ということ学術講演会運営要綱に入れるなどの対応もお願いしたい。」

(4) 学術委員会・学術講演会運営要綱の改定について [資料：学術2]

峯岸敬理事「優秀演題賞候補演題を高得点演題・ワークショップ演題に変更することで大勢の方が発表する機会を持てるようにしたり、演題の採点を5段階とするなどの変更を行っている。」

吉川裕之理事「ワークショップで100題組むとすると候補は200題くらい必要なのではないか。」

峯岸敬理事「ワークショップ演題には8点以上のクオリティのあるものを選ぶと明記している。」

平松祐司委員長「5段階に分けるのはよいが、減点項目はできるだけ少なくしておかないと、数日間ですべて仕上げるのが非常に大変になり、現実的な運用はできない。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

4) 編集 (上妻志郎理事)

(1) 会議開催

平成24年度第1回和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2012年投稿分 (4月末現在)

投稿数372編 (うち Accept 14編 Reject 124編 Withdrawn/Unsubmitted 78編 Under Revision 11編、Under Review 145編、Pending 0編、Expired 0編)

(3) 和文機関誌オンラインジャーナル化について

①4月23日に印刷所である杏林舎の担当者と東京大学において打合せを行った。

②機関誌内容の見せ方、構造等について協議を進めながら、なるべく早めにオンラインジャーナル化し会員の利便を図る予定である。

CiNii のデータを流用する63巻12号までは全頁ID・パスワードを必須とするが、64巻以降

に関しては、制約をかけるものとフリーで公開するものとの区別を行う。ただし、目次までは会員以外でも閲覧可能とする。

(4) 松本清一名誉会員の死亡記事について

上妻志郎理事「昨年12月に亡くなられた松本清一先生について、JOGRに自治医科大学の松原茂樹先生を筆頭著者とした死亡記事が投稿された。女性ヘルスケアにおける偉大な業績というテーマで内容的には良く整理された論文であり、編集では掲載すべきとしたが、今後のこともあり、学会としてこのような記事載せることの可否を議論いただきたい。」

吉川裕之理事「Editor へのレターとして載せるのか、Editorial から出すのか。」

上妻志郎理事「死亡公告という方式もありえる。」

小西郁生理事長「他の雑誌にもこのような記事は出ているので、載せることには問題がないと思う。

出し方は編集で判断して進めていただきたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(5) JOGR の Editors にアクティブなメンバーを入れることについて

上妻志郎理事「JOGR で AFOG としての特徴を出していくために、Editors に JOGR の運営について議論していくメンバーを入れたい。」

嘉村敏治理事「現在 Editors の先生方には honorary などの処遇をしたうえで、アクティブなメンバーに交代していただくことが望ましい。」

和氣徳夫監事「基本的には Editor in Chief の裁量と思う。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

5) 渉外 (木村 正理事欠席につき上田 豊主務幹事)

(1) 会議開催

6月8日第1回渉外理事・幹事会議を開催の予定である。

[FIGO 関係]

(1) Prof. Gamal Serour 会長、及び Dr. Andre Lalonde, Chair - Committee for Safe Motherhood and Newborn Health の連名で、International Journal of Gynecology and Obstetrics 117 (2012) 108-118 に post-partum haemorrhage のガイドラインが掲載された旨連絡があった。

(2) 10月9日、FIGO Rome 2012 にて開催の Interactive workshop on the FIGO Women's Sexual and Reproductive Rights Curriculum への出席者 (原則として各学会1名) を事前に連絡するよう Chair - FIGO Committee on Women's Sexual and Reproductive Rights より連絡があった。 [資料: 渉外1]

小西郁生理事長「木村正理事にお願いしたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) FIGO Election Process について

今年10月以降改選のアジア選出理事国の本会の推薦 (5月末日締め切り) については、FIGO 理事会後に理事長一任で決定することとしたい。

[AOFOG 関係]

(1) 6月23日フィジーにてAOFOG Council meetingが開催される旨、AOFOGより正式に連絡があった。本会より木村正渉外担当常務理事、上妻志郎編集担当常務理事が出席の予定である。

(2) AOCOG2013 演者推薦について [資料：渉外1-1]

小西郁生理事長「これまで若手を中心に推薦するなどの流れがあり、従来通り、学術委員会に推薦をお願いしたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

岡井崇副理事長「本会が推薦しても費用が出ないので辞退する人も多い。いくらかでも学会からサポートできないか。」

吉川裕之理事「幹事の時に2回行ったが大変であった。施設から費用が出るケースもあるが、出ない場合は学会に相談下さいとしておき、本会が交通費・宿泊費を持つことを考えてはどうか。」

(3) 村田雄二先生から提案のAOCOGでのMaternal and Fetal Medicineのレクチャーについて

小西郁生理事長「大変名誉なことであるが、これは今回限りのものなのか。」

上田豊主務幹事「継続する方向である。婦人科腫瘍と生殖内分泌には冠レクチャーがあるが、この領域にはないのがきっかけである。なおこれを創設するに当たって3,000~5,000ドルの寄附が必要とのことである。」

小西郁生理事長「冠レクチャーについては了承いただくとして、寄附については本会を通して行うかどうか、よく調べて決めたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

平松祐司委員長「第64回学術集会の際のFIGOフォーラムやInternational Workshopについて、AOFOGのホームページに載せたいとの依頼があり、資料などを送った。」

[ACOG 関係]

(1) 5月5~9日、サンディエゴにて開催されたACOG Annual Clinical MeetingにおけるExchange Programに、本会から小西郁生理事長、櫻木範明第65回学術集会長、木村正渉外担当常務理事、小林陽一幹事、阪埜浩司幹事、及び若手医師6名を派遣した。

[資料：渉外1-2]

平松祐司委員長「次期学術集会長がこれに参加することには意味があるが、加えて事務局どうしの交流なども重要だし、Exchange Programも集会長だけでなく学会が表に出た取組みとして考えて良いと思う。」

[SOGC 関係]

(1) 6月20日~24日、オタワにて開催のAnnual Clinical MeetingにおけるExchange Programに、本会から木村正渉外担当常務理事を派遣の予定であったが、AOFOG Council Meetingと日程が重なることから、工藤美樹理事を派遣することとなった。

[その他]

(1) 本会組織の英語名称について [資料：渉外2]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(2) International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (ISUOG)からの Trainee Membership Program 対象会員への宣伝について協力依頼を受けた。 [資料：渉外3]
小西郁生理事長「現時点でも一定の協力をしており、宣伝については謝絶することとしたい。」
本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) バングラデシュ産婦人科学会より、21st International Scientific Conference (9月14～15日、於：Bangabandhu International Conference Centre, Dhaka) への参加依頼を受領した。
[資料：渉外4]
小西郁生理事長「お誘いはありがたいが、参加依頼は多いのであまり無理はできないと思う。」
本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催

5月18日 常務理事会終了後、第1回 社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループ、及び第1回 社保委員会を開催の予定である。

(2) 昭和大学 市塚清健先生を本会より外保連画像診断試案作成ワーキンググループ委員に推薦したことから、同先生に本会 社保委員を追加委嘱したい。

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(3) 日本医師会 疑義解釈委員会より、「平成24年度第1回 供給停止予定品目(24 疑0120-2)」についての検討依頼を受領し、本会理事及び 社保委員による検討結果を回答した。

(4) 外保連分担金の値上げについて [資料：社保1]

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

(5) 平成24年度診療報酬改定による胸腔鏡又は腹腔鏡を用いた手術の施設基準の新設について

[資料：社保2]

吉川裕之理事「ホームページで会員へ周知し、理事長名での要望書を厚生労働省に出したい。」

吉村泰典委員長「大きな病院では問題ないが、クリニックでは問題となるケースが多い。至急会員にお知らせすること、会員が困っていることを厚生労働省に伝えることが重要である。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 会議開催

平成24年度第1回 専門医制度中央委員会を5月19日に開催予定である。

(2) 日本専門医制評価・認定機構 [資料：専門医1、1-1]

①平成 24 年度第 1 回社員総会が 5 月 8 日に開催され、本会小西郁生理事長が同機構の理事に選出された。新役員による本年度第 2 回理事会が 5 月 15 日に開催された。

(3) 専門医認定二次審査

面接試験担当者に平成 24 年度面接試験担当の依頼状を送付した(4 月 2 日)。

佐川典正議長「機関誌 5 月号に来年度から施設基準が変わることが記載され、申請書類の締切は 5 月末となっている。通知から締切までの期間が短いし、地方の先生方は十分に変更内容を理解していないのではないかと。現行の AB 施設については昨年の方委員長会議で議論したが、秋以降に問題が出て半年もしないうちに今回の変更となっている。4 月の臨時総会で質問があったがそのまま採上しなかったのは、6 月総会までに専門医制度委員会で内容を固めて広報する、ということであったからである。」

吉川史隆理事「全専攻医指導施設には変更についての手紙を出しており、質問者も納得している。現時点で特にクレームはない。」

佐川典正議長「制度そのものが変わる場合の手続き論として、公益法人には会員への公知などを丁寧に行う必要があると思う。手紙だけでなく双方向のやりとりができる場を通してコンセンサスを得ておくべきではないか。必ずしも 5 月末に拘らなくても良いと思う。」

吉川史隆理事「今年は手続き不備な施設も出てくるかもしれないので、5 月末でなくても対応できるように考えたい。」

吉川裕之理事「確かに分かりにくい面もあるので、ブロック別説明会や問合せ窓口のようなものを作り、研修中の人にデメリットがないように配慮できないか。」

小西郁生理事長「専門医制度委員会では継続的にこの問題を議論しており、周知徹底にはかなり力を入れてきたが、さらにもう一段周知を行うことや間にあわなかった施設への対応など検討したい。この区分を周知して各都道府県でプログラムを作っていただくことが非常に大事であるので専門医制度委員会と十分相談して進めていきたい。」

8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成 24 年 4 月 30 日)

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：46 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：568 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：568 施設
- ④顕微授精に関する登録：506 施設
- ⑤非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

5 月 7 日現在申請 273 例 [承認 238 例、非承認 4 例、審査対象外 17 例、取り下げ 1 例、照会 9 例、審査中 4 例] (承認 238 例のうち 7 例は条件付)

(3) 会議開催

- ①「平成 23 年度第 5 回着床診断に関する審査小委員会」を 5 月 1 日から 10 日まで通信会議にて開催した。
- ②「平成 23 年度第 5 回倫理委員会」の集合会議を 5 月 21 日に開催する予定である。

(4) 7 月 16 日に開催する「遺伝カウンセリング講習会」の受講申込締切期限を 5 月 20 日まで延長した。

9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

- ① 5月16日に平成24年度第3回専門医認定筆記試験問題作成委員会を開催した。
- ② 5月18日に第65回学術講演会開催時「第5回若手医師企画」企画委員による打合会を開催する。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

5月9日現在、入金済5,902冊、校費支払のため後払希望52冊。

(3) 用語集・用語解説集電子版について

用語集・用語解説集の書籍版に関しては、来春発刊を予定しているが同時期に電子版の発刊も予定している。用語集・用語解説集電子版については、書籍中で用語をクリックすると用語解説が読むことができるなどの仕組みを考えている。将来的には産婦人科研修の必修知識など、本会で発刊している書籍の電子版とリンクを張り、用語集・用語解説集と必修知識などの書籍との齟齬が生じないような形を目指している。

10) 地方連絡委員会（落合和徳副理事長） 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（嘉村敏治委員長）

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) バナー広告について

① ホームページバナー広告掲載趣意書について [資料：広報4]

嘉村敏治理事「バナー広告を増やしていく方針のもと、募集案内の趣意書を製薬メーカーを中心に配って依頼をしていきたい。」

本件につき特に異議なく、全会一致で承認された。

② 一般ページに掲載のアボットジャパンのバナー広告について、2012年5月1日から2013年4月30日まで1年間の継続が決定した。

2) 未来ビジョン委員会（吉村泰典委員長）

(1) 特任理事の設置について [資料：未来ビジョン1、2]

吉村泰典委員長「6月の理事会までにご意見をいただいて承認を受け、定時総会にかけて決議されれば、理事長の考え次第ではあるが、来年度からスタートするのではないかと考えている。」

岡井崇副理事長「理事長には行いたい事業はあると思うので、基本的には賛成である。」

嘉村敏治理事「同感である。」

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長)

岡井崇委員長「震災対応マニュアルの作成を検討している。各先生には執筆を依頼することになるので、よろしく願いしたい。」

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

- ①「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について
5月9日現在、入金済 11,966 冊、後払希望 0 冊。
- ②「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について
5月9日現在、入金済 12,855 冊、後払希望 88 冊。

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

- ①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について
5月9日現在、入金済 10,572 冊、後払希望 98 冊。

(4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長) 特になし

5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長) 特になし

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長) 特になし

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

(1) 会議開催

5月18日、今後の女性の健康週間活動のあり方について、小西郁生理事長を交え、企画会社と話し合いを行った。

- (2) 第64回日本産科婦人科学会学術講演会初日の4月13日(金)に、男女共同参画・女性の健康週間委員会企画「産婦人科から発信する男女共同参画」—より充実した研修とキャリア継続のために—をシンポジウム形式で開催した。参加者は、事前登録者 72 施設 169 名を上回る満席の 180 名と盛況であった。

8) 若手育成委員会 (齋藤 滋委員長欠席につき金内優典主務幹事)

(1) 第6回産婦人科サマースクールについて

- ①4月20日付けで専攻医指導施設責任者、各大学教授、各都道府県の産婦人科医会長宛に広報のお願いとして、リーフレット並びにポスターの送付を行った。
- ②5月10日午前9時より募集を開始した。締切は6月15日正午である。今回はオンラインでの申込みのため締切以後の申込みには原則として応じられない。
- ③サマースクール前日に行う被災地視察については、岩手県の先生方と相談してコースを変更する可能性もあるが、地元の先生方のご意見を伺いながらより有意義なものとするべく予定している。
- ④いまだに余震も続いており、また、今回は被災地視察もあることから、参加者については国内旅行傷害保険をかけるようにしたい(実費負担学会：一人当たり200~500円程度)。

⑤第6回産婦人科サマースクールも若手委員の先生方にご協力をお願いしたが、その第2回打合せを5月25日に開催する予定である。

(2)山口内分泌疾患研究振興財団からの寄附については、寄附者の了解のもと、スプリングフォーラムを中心にサマースクールなどを含む若手医師育成業務に使用することとした。

9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長）

(1)周産期委員会より申請のあった研究課題「周産期登録業務及び登録情報に基づく研究」についての臨床研究審査報告書を提出した。[資料：臨床審査1]

10) 医療安全推進委員会（岡井 崇委員長）

(1)日本医療機能評価機構より、第2回産科医療補償制度再発防止に関する報告書が送られてきた。[資料：医療安全 無番]

III. その他

(1)平成24年度議事録作成幹事予定表について [資料：その他1]

以上